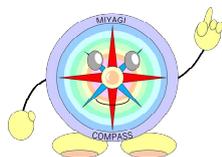
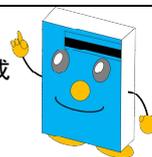


Q 主体的・対話的で深い学びとは？

A 「育成を目指す資質・能力」を踏まえた授業づくりの実現に向けて、取り組むべき授業改善の視点である。

<p>主体的な学び</p> <p>主</p>	<p>学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点。</p>
<p>対話的な学び</p> <p>対</p>	<p>子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点。</p>
<p>深い学び</p> <p>深</p>	<p>習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。</p>

(特支小中学学習指導要領解説総則編 第3編第2章第4節1, 特支高学習指導要領解説総則等編 第2編第2部第1章第4節1)を基に作成



第2章で「**授業改善の視点（主体的・対話的で深い学び）**」(p. 2-32～p. 2-34)を提案しています。

授業づくりをしたり、授業改善をしたりするとき、目の前の児童生徒の実態に合わせてこの視点を活用してみてください。